



◀関係者によるテープカットで開所を祝う



労働力不足解消へ県内JAで初の取り組み

営農企画課

JAあきた白神が開設を進めていた「無料職業紹介所」が12月13日、営農部営農企画課内にできました。高齢化や農業者の減少により労働力不足に悩む生産農家に、管内外から農作業を支援できる求職者を紹介することで、主力品目の更なる面積拡大や生産力の維持拡大を図ることを目的としています。この取り組みは、県内15JAでは初めての試みで、生産現場の労働力不足解消に向けたモデルケースとして期待されています。

この日行われた開所式では、山本地域振興局、中央会、

能代市、JAなど約20人が参加。佐藤組合長は「農業生産において労働力不足となり、面積の拡大出来ない農家が多い。その一助となればと思い、無料職業紹介所を開設した。農業の維持拡大、農業所得を増大させることは、未来へこの地域農業を継承する上で重要なこと。これを機会に、複合経営の安定的な生産の確保につながってほしい」とあいさつ。その後、テープカットで開所を祝福しました。今後は、新聞の折り込みチラシやJA広報、ホームページなどを活用し、求人・求職を幅広く呼び掛けていきます。

「あきたこまち」の美味さを競う

稲作部会

稲作部会（堀内直富久部会長）は11月28日、JAあきた白神本店にて「食味官能コンテスト」を開き、組合長をはじめ地域振興局や市、町、青年部長や女性部長ら17人が審査員役として参加し、29年産米あきたこまちを食べ比べました。

事前審査を通過した5点がこのコンテストに進み「外観」「香り」「味」「粘り」「硬さ」の5項目で判定され、審査員は新米の味を確かめるよう慎重に審査しました。今後、大手精米メーカーでの分析結果も踏まえて総合評価し、最優秀賞が決まり、その米は「最優秀賞米」として、農産物直売所・みょうが館で販売される予定となっています。



▲出品された米を試食する審査員



▲栽培技術向上に理解を深めた

次年度の栽培に向けて

経済課

あきたe c oらしいすの生産に向け生育管理のポイントを学ぶことを目的に、12月4日と5日、肥料・農業レベルアップ研修会が能代市工業団地交流会館で開かれ、生産者ら約80人が参加し、次年度へ向けて栽培管理に理解を深めました。

研修では、あきたe c oらしいす対応の稲作技術や病害虫の発生状況、除草剤の効果的な使用方法などを各担当者が説明し、このうち、あきたe c oらしいす対応の稲作技術では、地域振興局職員が、今年の作柄や品質、次年度の技術対策などに触れ「近年の異常気象に耐えることができる土作りが必要。肥料も多様化しているので、圃場条件やその特性をよく理解することが大切」と呼び掛けました。